

1人1台端末の活用による、日常生活の質を向上させる実践事例

学校名	県立西備支援学校	指導者名	岡田 優
実践場面 (教科名)	算数	単元・題材名	数の理解
学習目標・ ねらい	1から10までの数に親しむことができる。		
対象児童生徒の 実態	肢体不自由 部門 小学部 3年 ・医療的ケア児である。 ・単語程度の発語はあるが、発音が不明瞭で理解を得にくい。 ・1、2、7等、数字を読むことはでき、部分的に量として理解している数はあるが数序も含めて全体的には不確実である。 ・日常的にiPadを使っているが、教科学習としての使用頻度は少ない。		
	活用の概要		
使用する機器：タブレット端末 (iPad) 使用するアプリ：はじめてのすうじなぞり			
<ul style="list-style-type: none"> ・個別課題としてiPadのアプリ（はじめてのすうじなぞり）を、個別学習の時間等に取り組みことにした。 ・1～10までの数字と数序の理解と定着を図った。 ・筆順を覚えることよりも数字に親しむことを目指すので、筆順の間違い等でクリアできないときは、教師と一緒になぞってクリアするようにする。 ・本人が意欲を持って継続的に取り組むことを目指した。 			
			
成果や活用の ポイント ・ 課題、改善 点等	<ul style="list-style-type: none"> ・すうじなぞりのアプリに初期の段階から興味を持って取り組んだ。 ・自分なりの筆順でなぞってしまいクリアできないことはあったが、教師と一緒になぞることで徐々に正しくなぞることに慣れていった。 ・画面をしっかりと見て、なぞる指に集中して取り組み、意欲的に繰り返し取り組んだ。 ・クリアできたときは、教師とハイタッチするなどして達成感を感じ次へのモチベーションにつながったと思われる。 ・継続して取り組んでいるがまだ不確実な部分は多い。しかし本人は楽しみながら意欲的に取り組んでいるため、今後確実な成果を出すことが期待できる。 		

(R5.10.27 提出)